

Tokyo Prefecture Art Gallery at Uyeno Park.



(1) 東京府美術館全景

(1) Front View of Tokyo!Prefecture Art Gallery.

上野の森に壯麗なる美術の殿堂

東京府美術館の建築工事

美術學校教授 岡田 信 一 郎
早稻田大學講師

上野公園にバラック建の美術展覽場が永い間續いたが昨年からあの森にふさはしい東京府美術館が出来て前のバラック建が久しぶりに撤去され晴々しい美しい壯麗な氣分がたゞようである、陽春の時期に際し今改めて此の美術館の内容外觀を詳報するものである。(編者)

位 置	東京府東京市下谷區上野公園 二本杉跡	室、工藝品陳列室、食堂、調理室、事務室、小使室、守衛室、看守室、倉庫 換氣室、便所等
工 作	着手、大正 13 年 9 月 4 日 落成、大正 15 年 3 月 15 日	主 階 1,042 坪 6 合 7 勺 玄關、廣間、繪畫陳列室、休憩室、切符賣場等
坪 數		中二階 56 坪 2 合 5 勺 貴賓室、同次室、會議室、便所等
地中階	67 坪 5 合	總延坪 合計 2,627 坪 3 合 4 勺
一 階	汽罐室、換氣機械室、石炭庫、空濠等 1,460 坪 9 合 2 勺 各側玄關、同下足室、廣間、彫刻陳列	

内	
繪畫陳列室	919 坪 345
畫壁延長	441 間 300
臨時畫壁延長	93 間 330
畫壁延長合計	534 間 630
彫刻室	376 坪 384
工藝陳列室	234 坪 249
總工費約	1,100,000 圓
從業總延人員	68,889 人
建物の高さ地盤より	パラベット上端迄
	47 尺 7 寸

様式

近代クラシック式、各正面の中央出入口の部だけに連柱を建て、多少裝飾的に計畫し、其他の部分は無飾平凡の煉瓦壁として素朴質實な効果を擧げんと企てたり、表面を掻き荒した、且焼むらの多い煉瓦を選びしも其爲なり。

構造概要

鐵筋コンクリート構造にして屋根は鐵骨小

屋コンクリート打中央大彫刻室は鐵骨屋根とす。

基礎 地盤より 3 尺 7 寸乃至 5 尺掘り下け、鐵筋コンクリート礎盤を築き、各礎盤間はコンクリート繫梁を以て連絡したり。

壁體 壁體は鐵筋コンクリートにして、外壁は腰部煉瓦半枚積、上部は同張付煉瓦貼り、蛇腹の部は同質のテラコッタを以て被覆す。

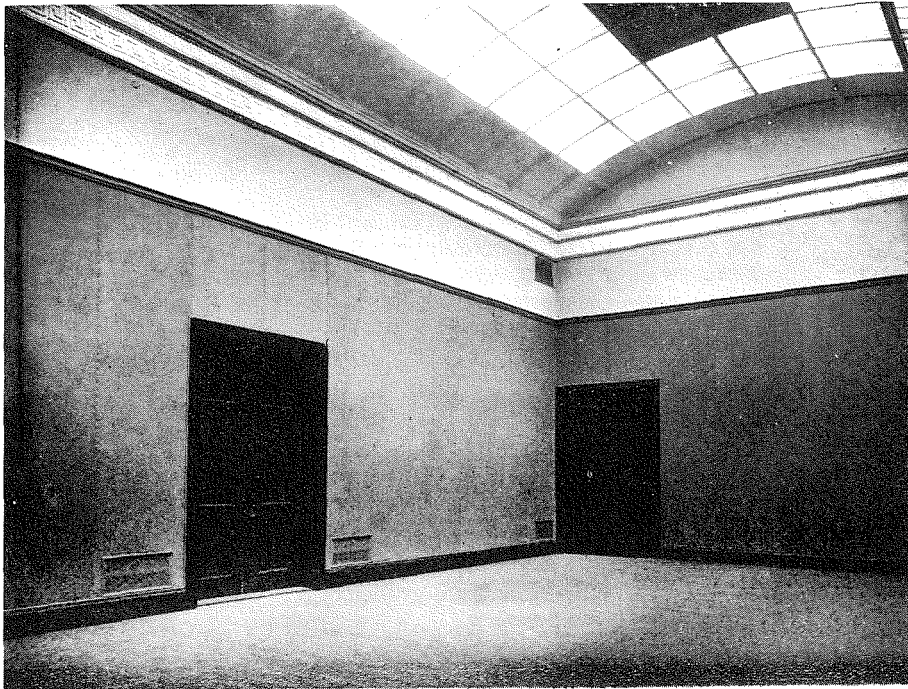
内壁は、繪畫陳列室は鐵骨コンクリート壁に、木骨二重壁を造り、畫壁高 15 尺迄を厚板張りとし、カンバス張り仕上とす。

其他内壁は鐵筋コンクリート壁漆喰塗り仕上とす。

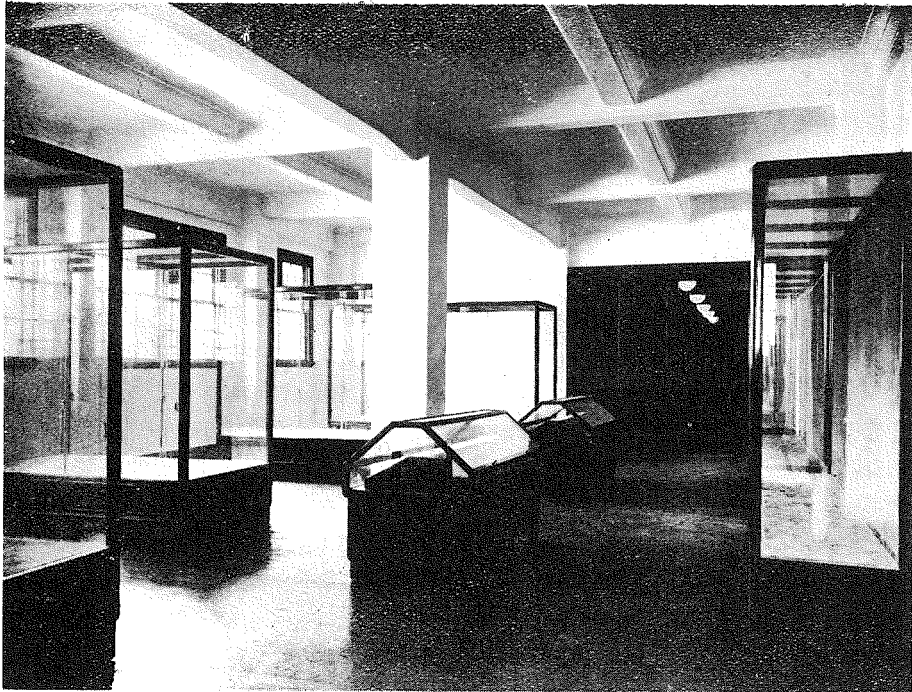
屋根 繪畫室の部は鐵骨小屋にリグラスを張り、鐵筋を以て補強しコンクリート打ちマルソイド防水屋根とす、谷及び樋口は鉛板を使用す。

天窗の部は英國ヘンリーホープ會社製スカイライト、バーを使用し、同社網入硝子を嵌入す、中央彫刻室屋根は鐵骨小屋一部天窗一

(2) 同 繪畫陳列展觀室



(3) The Picture Gallery.



(3) 同 工藝品陳列室

(3) Art Gallery.

部板張り鋼板葺きとし、天窗の部は前記ヘンリーホープ社製品を使用す。

天井 天井は漆喰塗仕上とし主階繪畫室は穹窿狀格天井とし、格間の一部をガラス張りとし、天窗よりの光線を畫壁に導く様に注意せり、一階各室天井はコンクリート床盤の下端漆喰塗仕上とし、彫刻室天井は鐵小屋下端に布張り天井とし。

床 鐵筋コンクリート床とし、仕上は彫刻室、下足室、玄關、食堂、便所等はタイル張り、繪畫室、工藝陳列室、事務室等はチーク縁甲板張り、貴賓室、寄木板張りとし。

出入口及窓 觀覽者、出入口は各側中央にあり、其他作品搬入口、事務室用口、調理場用口、食堂用口及地中階入口あり、正面及南側は玄關に大石段を設け、靴専用出入口とし其他は一階、兩側より下足場を経て階段により前記玄關に通す。

各出入口扉は外部に面するもの及彫刻室廻

りのものはチーク製とし。

内部間仕切のものは檜材を使用し、便所、倉庫は臺檜材を使用しペンキ塗仕上とし、調理場、送風室、汽罐室等には防火鐵扉を用ひ調理場には捲上シャッターを使用したり、窓はスチールサツシユにして二階廻りを除く他全部上げ下げ式としたり。

一般配置概要 階上は悉く繪畫陳列室である、正面又は南面の大階段を登つて達する、若くは此の階段傍の階下出入口から入つて、下足を脱して階段を上つて至る事も出来る。

繪畫室の高さ約 24 尺、其中 15 坪許りは厚板で張り詰め、上を麻布で張つて畫壁とした、此れは何處にでも釘を打つて、取付ける事の出来る様に言ふ、美術家達の注文に依つたのである、其より上部は漆喰塗りで、茶灰色に仕上る、天井は白漆喰の格天井で、其一部が硝子張りになつて、此處から採光する光線の關係は、從來の天井マドとは多少趣

きを異にする、天井の中心から光線をこる、従来のやり方は、繪畫よりも、見物人を明るく照す故、繪畫を見る上に効果が悪い、和らかい光線が見物人よりも充分に畫壁を照らす方が合理的で、結果も良いわけである、格天井の硝子の部分はスタンド硝子の鐵骨を利用して、硝子板を嵌め合せ、曲面に仕上げた。

此の上の硝子屋根は、雨漏りの心配が多いので、英國ヘンリーホープ會社特製の天窗用鐵骨を使用した。

天井上の屋根裏は修繕其他の場合に職工が通れるやうにしてある。繪畫室には、各室一ヶ所に電燈線の差込口を設けて陳列替なきをするさき不時に大燭臺を使用出来るやうにしてある。又繪畫室の大室では、臨時に間仕切カベを組み立て、畫壁の延長を増す事の出来る様にしてある。此骨組の材木は總て、特製の鐵物で取付け、常には地階の物置に貯藏される。

中央正面廣間の階上には中階を設け此處に貴賓室及次室を造り貴賓の御休憩にあて、又他に會議室を設置した。此等の室は孰れも相當に裝飾される、正面中央出入口ホールの突當りには大階段を設け、直ちに彫刻室に下りられる。

階下は主正面及び南正面は中央出入口下に下足室がある、此正面は直ちに、工藝部に入り、西正面は彫刻室への玄関である。西正面からは或は階段で階上の繪畫室へも行かれる。美術館は帝展其他で總體を使用する場合もあるし、又數多の小展覽會で區劃して使用する様にも計畫してある。即ち階上の繪畫室は二分、三分、若くは四分して使用する事が出来る様、階下の彫刻室は常に獨立して使用され、工藝の陳列室も全體又は二分して常に工藝品展覽會にのみ使用される、各面の出入口には其積で計畫したのである、階下では主正面中央より北方、即ち北正面全部、約 270

(4) 同 食 堂

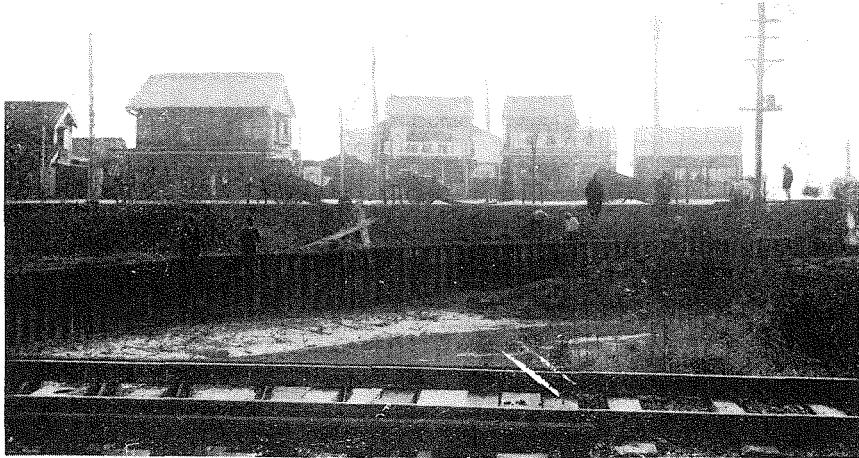
(4) The Dining Room.





テル、ルージュ型鐵矢板

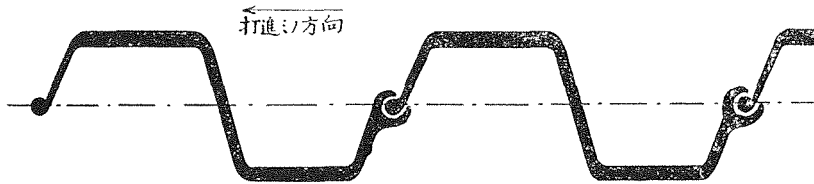
(Terres Rouges Steel Sheet Piling)



テル、ルージュ型鐵矢板護岸工事

東京府御施行京濱國道筋東京市外蒲田町内呑川

テル、ルージュ型シート、パイル断面圖



— 特 徴 —

- (1) 同一重量ニ對スル被覆面積最大ナリ
- (2) 断面剛率最大ナルヲ以テ最低ノ工費ヲ以テ他ト同一強度ノ構造物ヲ作り得
- (3) 結合溝ノ構造合理的ナルヲ以テ打込引抜き最容易ニシテ上圖矢ヲ以テ示セル方向ニ打込メバ結合溝ニ土砂浸入シ次杭ヲ引ズルコトナシ
- (4) 直角ニ屈折セル構造物ニモ異形杭ヲ使用スル要ナシ
- (5) 個々ノパイルト構造物トシテノ中軸線ハ全然一致スルヲ以テ計算上ノ疑義ナシ
- (6) 打込ニ當リガイド用フロッツクヲ使用スル要ナシ

テル、ルージュ型鐵矢板製造會社

ルクセンブルグ公國コルメタ社

日本總代理店 株式會社 **岩井商店**

本店 大阪市東區北濱四丁目四三 電話本局自344至346 本局自3854至3856
 東京支店 東京市京橋區柳町三番地 電話京橋自3121至3128
 支店所在地 神戸、横濱、福井、鹿兒島、上海、漢口、倫敦、紐育

スラムptest用具發賣

混凝土試験の最も簡便なる方法

混凝土の強度を一定する
爲めに

先づ

混凝土の稠度 (Consistency) を試験する事が最も必要であります。稠度を試験する方法にスラムptest、フローテスト、プレートテストの三種の方法がありますが、先づ最も簡便な方法として各現場で誰にでも手軽に實行出来るのはスラムptestであります。

スラムptestは各現場で夫々現在練合してをらるゝ混凝土の水加減が設計の混凝土強度と一致してをるか何うかを知る最も輕便な方法であります。

手數のかゝる面倒な試験は現場で中々實行出来ません、先づ簡便なる方法から御始めなさい。夫には誰にでも現場で直ぐ實行出来るスラムptestに限ります。

工事畫報社研究會はスラムptest用具一組を箱入にして今や各地の工事現場へ分讓してをります。

一組の用具は

一組箱入 金拾七圓 荷造料運賃市内=限り弊社負擔
一組入の箱の大きさ 11 $\frac{1}{2}$ " × 18 $\frac{1}{2}$ " × 13 $\frac{1}{2}$ "

- 1 スラムptestコーン 壹個
- 2 搗棒 壹本
- 3 コテ 壹個
- 4 スコープ 壹個
- 5 檢寸定規 壹本
- 6 スラムptest記入用紙 百枚

以上を一組とし箱入にしてあります。使用法とテストの記入法などカードに印刷して箱の蓋に貼付してありますから、工事監督の工夫君にでも助手君にでも直に使用出来ます。

工區の廣い處は各コンクリート箇所に一組宛備へて毎日練初めに一部分のテストをやるのです。一日の内にも變つた材料を使用する時は案外に水分の多い砂などを知らぬで使ふ事がありますから、二回でも三回でもテストする事が必要です。

ビルデング工事などでは基礎とか、床とか、柱とか、壁とか、皆夫々異つた水加減の混凝土を造らねばなりませんから、二組位を備へて置いて時々テストする事が必要です。

東京丸ノ内仲通り四號館七號 工事畫報社

坪が、工藝品の陳列場になつて居て、之れは側窓から採光され常に陳列箱を設置して、工藝品の展覧にのみ使用されるわけである、階下の東南隅は食堂で、厨房を備へて、簡単な食事、茶菓を供する事が出来る、西南隅には事務室が設けられ、其下に地中に暖房機關室等が造られる、側に送風室がある。

階下の中央部 420 坪の大ホールは彫刻室で西側正面の中央出入口から直通する。又東側中央の階上から、大階段で下ることも出来る、上に鐵小屋を架け其下に高約 30 尺の處に布天井を張つて、光線を加減し、又鐵小屋を蔽つて居る、彫刻室へは製品搬入口、運搬車に依つて彫刻物を引込事も出来る。

彫刻ホールの四圍には倉庫を設け、陳列室の間仕切、陳列箱等を納め、又落選品等を一時貯藏する。

設備概要

換氣設備 給氣は側窓の設けなきに依り、機械的換氣を必要とす屋上の新鮮空氣取入塔より、空氣を導入しキャリヤー型空氣洗滌器に依り塵埃汚氣を去り、ローラ式附屬汽罐に依り、適當に加熱又は排濕したる上パフアロー形送風機に依つて敷設しある氣筒を通して各陳列室に送風す、室内換氣は一時間に一回半を標準とす。

彫刻室排氣装置は室の兩端にある壁隙の内上部に各 2 臺の新鮮空氣取入用プロペラファンに依り、屋外の新鮮空氣を取り入れ、彫刻室下方グリルより放出す、屋上排氣塔より屋外へ排出す。

電燈設備 高壓交流 3,300 ボルト三相三線式にて地階引込み、電燈用は 75 キロ變壓器により、200 ボルト單相三線式とし、一階配電盤より單相二線式に依り各燈に配線す。

配線は總て隱蔽工事となし、シエラダクト金屬管を使用せり、電燈は一階各出入口廣間下足室、事務室、食堂、調理室、小使室、倉庫及び中二階、貴賓室、同次室、會議室等には夫れ夫れ設置す。

各陳列室は電燈照明を設備せざるも夜間陳列替等の場合に便にする爲め、壁巾木に差込口を設け置き必要の場合には電燈燭臺を使用し得る事とせり。

建物外部には各出入口に裝飾電燈を附せり。

電力設備 前記高壓交流 3,300 ボルトを地階に設置せる 20 キロ變壓器三臺に依り 200 ボルトに變壓し三相三線に依り換氣用、送風機、給排水用ポンプ等に導く、尙、貴賓室同次室、會議室には電熱器を裝置す。

電話 事務室に電話を裝置し又、中二階次室小使室、調理場の間に連絡用室内電話を設く。

給水設備 給水は市水道管より分岐し、便所洗面所、手洗、床洗、水栓、調理場、汽罐室送風室等に給水し、貴賓室、便所のものは屋上にタンクを据へ、水道管を以て給水し、壓力の減じたる場合は地階の手押ポンプを以て補ふものとす。

衛生設備 各便所は水洗式にして大便所にはフラッシュバルブを具ふ、各便所の汚水は正面二個所及背面二個所の各便所傍に小分離槽を設置し、汚水を處理し、之れより流出せるものは最後の大處理槽に導き、腐敗槽及好氣苗槽、濾化槽、消毒槽を通過し淨化されたるものを下水に自然放流す。

瓦斯設備 瓦斯は東京瓦斯會社より供給を受け、事務室、暖爐用、小使室、炊事用、調理場用として使用する。

三井道男氏曰く (岡田建築事務所技師)

上野東京府美術館は普通の美術館の様に美術品を展覧しながら藏つて置くのではない、一時的の展覧會場の目的で建てられたのですから、間取りも全體の大展覧會場(例へば帝展の様に)にも、又多くの小展覧會にも同時

の催しに使へる様に考へてあります。各々展覧場は主に光線の工合から地階外面を工藝品展覧場や事務室等に當て、中央を地階二階通しの大彫刻陳列場とし、二階を給畫の展覧場として居ます。